

題「火」 浅原志ん洋 選

特選

花火果て夜空が星を取り戻す

庄原市 新宅 涼枝

【評】花火大会の夜空は華やかだ。その間星は輝きを失っている。しかし、花火が終ると星は本来の光を放ち始める。

ヒロシマに残る火の色火の匂い

広島市 常國 喜好

【評】被爆者が一様に語る話がある。あの惨劇を伝えるのに言葉や映像では決して伝えられないものは匂いであると。

燃え尽きてやさしい風を待つばかり

東広島市 佐々木昭子

【評】最善は尽したつもりだ。あとは運命の女神の判断を待つだけだ。きつとやさしい風が頬をなでてくれるだろう。

断捨離に心の火種だけ残す

東広島市 大木 雅彦

【評】人生もそろそろ終盤である。煩惱を断つように身の整理をした。ただひとつ心に誰にも言えぬ火種を残して。

核廃へ口火切れない核の傘

広島市 山根 博昭

【評】最初に核の洗礼を受けた国が、なぜ核廃を言えないのか。核の傘という破れ傘からこそ出る時ではなからうか。

入
選

持て余す人が造った原子の火

福山市 村田 幸夫

火の海を語るドームの使命感

三原市 笹重 耕三

埋火をほぐし傘寿の再起動

福山市 新庄 芳春

あの世まで残り火確と抱いて行く

呉市 野高 善子

花火舞い湖面を飾る万華鏡

庄原市 古本 文子

ライバルがわたしの胸に火をつける

広島市 西永美智枝

三秒の芸術花火師が競う

広島市 川上 咲良

かがり火が燃えて鶴匠のわざが冴え

庄原市 荒木美智子

しぶしぶと妥協火種は灰の中

広島市 福田 淳子

燃えつきるまでは恋する火の女

江田島市 問可 圧子

ソロキヤンプ自我を煮詰めている焚き火

気紛れな正義火傷をくり返す

ふるさとの母のにおいと火の記憶

おおごとになせない母の火消し壺

護摩の火の陽炎越しに歪む顔

戦場をプロメテウスの火が駆ける

火に油ひとこと多いアドバイス

物価高火の車ひく弱者達

消し壺の中で再燃する語り

残り火を静かに瀬戸に灯す老い

広島市 永井 有三

広島市 高東八千代

広島市 熊谷 純

江田島市 住田 照水

東広島市 香川不可止

三次市 新見 理恵

広島市 大杉 綾子

呉市 芳野 幸忠

福山市 高橋 泰子

竹原市 室 晃二